

け や き



「つながりによる学び」が未来を拓く ～大仙教育メソッド発進～

大仙市教育委員会 教育長 吉川 正一

以前、市内校長会でも話したのですが、今、AIつまり人工知能の進化により社会が大きく変化し、それへの対応が重要視されています。AIとは、Artificial Intelligenceということで、「人によってつくられた人間のような知能」と説明されるようです。イギリスのオックスフォード大学マイケル・オズボーン准教授や野村総研の研究者らの研究結果によると、日本で働いている人の約49%の仕事は、10～20年後に人工知能にとって代わられるという試算が出ているそうです。また、20年後、今ある仕事の65%が今はない仕事になっているという研究も合わせると、大変な時代の到来といえます。

それでは、AIにとって代わられない仕事とは、どんな仕事でしょうか。野村総研の寺田上級研究員は、代替されにくい職業の特徴として3点挙げています。一つ目は「創造性」が高いこと。例えば、芸術や歴史学、哲学といった抽象的な概念やアイデアを整理・創出するための知識が要求されるものです。したがって、幅広い教養が必要となります。でも、人工知能による絵や音楽も既にできているとの情報もありますので、更なる多様化時代になるともいえます。二つ目は「コミュニケーション」の力が必要とされる仕事です。他者と協調すること、他者を理解すること、説得すること、交渉能力が求められるような仕事は簡単にはなくなりません。そして、三つ目は「非定型」的な仕事です。データの蓄積ができないということで、定型化ができずコンピュータの仕事にはなりにくいということです。

そして、我々学校教育に携わる者にとって、子どもたちに身に付けさせるべき力とはどんなものか、いくつかあげると…「論理的な思考力」「創造力」「実行力」「リーダーシップ・主体性」「チャレンジ精神」「コミュニケーション能力」「チームの一員として仕事する力」「基礎学力・専門学力」「専門的知識・能力」「ITスキル」「説得力・協調性」「語学力」「豊かな教養」「哲学・歴史・文学等に関する知識」「社会規範性」等と、多種多様な能力や技術をもっていないとこれからの時代を生き抜くには難しいことのようにです。

また、NPO法人フローレンス代表理事駒崎弘樹氏は、これからの時代を生き抜く三つの力を次のように述べていました。

- ①**学び続ける力**。自分から学んでいく姿勢、情報を得られる場へ自ら参加する、学び続けている人のコミュニティへ自ら身を置くといった行動を具体的に起こしていかない限り、40年という長い社会人生活で時代においていかれてしまう。
- ②**コラボレーション・リテラシー**。近い将来、メガ企業（巨大企業）を核にして、何千万人ものミニ企業家で構成されるエコシステムが形作られ、大勢のミニ企業家がコラボレーションを通じて活動を調整し合うようになる。つまり、これからの時代はメガ企業をプラットフォームとしたミニ起業家が中心となり、世界を作っていくのである。これからの時代は、どのメガ企業をプラットフォームとして活用するかといった点やコラボレーション能力が非常に重要になる。
- ③**問題を見つけて試行錯誤する力**。仕事でやることは、過去も未来も、20年前も20年後も、そして100年前も100年後も「問題発見」すること、そして「問題解決」をすることである。これは時代がどんなに変わっても不変のものだ。この問題解決のプロセス。それは「これは課題ではないだろうか」と気づき、まだ答えがないものに仮説を立てて、

プロトタイプを作り、やってみて失敗して、また試してみても答えに近づくと、というもの。でもこのプロセスがたいへん重要なのである。

今、地域の脆弱化、限界集落の出現など、ふるさとの将来を楽観視できる情報はありません。2年ほど前、元総務相で東大の増田客員教授らが、2040年には全国1800市区町村の半分の存続が難しくなるとの予測をまとめたことは記憶に新しいと思います。そして、我が秋田県は25市町村のうち大潟村を除くすべての自治体が人口構成で見ると存続が難しくなるとの記事が県民を驚かせました。

このように、急速な社会構造の変化が進む中、今年度、**地域活性化に寄与できる人材**とその能力を伸ばす教育として「**大仙教育メソッド**」を立ち上げました。中にはどこがメソッド（方法論）になっているのかと疑問に思う人も多いと思いますが、三つの力（「基礎となる力」「学ぶ力」「活かす力」）を、校長の経営感覚を生かしながら**中学校区ごとの方向を示し、目指す子ども像に迫るという手法**を大仙市の教育メソッドと捉え、スタートしました。そして、これを推進するための共通ツールが「**大仙ハローパスポート**」です。

教育メソッドの基盤となる「基礎となる力」には、キーワードとして「思いやり」「たくましさ」「市民性」を挙げていますが、私は、特に「**市民性**」の育成を考えていただきたいと思っています。このシチズンシップ教育の目的は、子どもたちが、参加型民主主義を理解・実践するために必要な知識・スキル・価値観を身に付け、行動的な市民となることであり、そのため



＜西仙北中による空き家を利用した地域活性化プロジェクト＞

の学びと体験を構築していく必要があると強く感じています。そして、「学ぶ力」。特にキーワードの中にある「**探究**」は、次期学習指導要領で進める学習の核とも言える「アクティブ・ラーニング」と軌を一にするものであります。前段で述べたこれからの時代に求められる力を育てるため、問題発見・解決を念頭に置いた学びの過程がしっかりとつくり、**子どもたちの好奇心を揺さぶり、「なぜ」「どうして」が飛び交う授業**が展開されることを期待しております。

最後の「活かす力」。「基礎となる力」「学ぶ力」の**総合力としての「活かす力」**。今年度からスタートした空き家のリノベーションによる「西仙北中学校地域活性化プロジェクト」などはその好例として挙げられるでしょう。さらに、大曲南中学校区が推進している「**ESD**」もこの「活かす力」の一つに加え、総合的な学力を伸ばしていただきたいと思います。

これらの三つの力を支え、深めるのが「**連携**」…つまり「**積極的つながり**」です。大仙教育メソッド推進のツールとなっている「**大仙ふるさと博士育成**」事業は、子どもたちが自ら地域とつながることで学んでいくものであり、既に700人以上がふるさと博士初級以上に認定されています。

各中学校区ごとに多くのつながりと明確な方向性をもった大仙教育メソッドが推進されれば、少子化にあっても学校は地域コミュニティの核として確固たる地位を占め、未来を拓く子どもたちが育てられていくものと確信しています。

教育課程研究指定校事業 (中学校国語) (国立教育政策研究所)

主体的で深い学びのために

大仙市立大曲中学校 教諭 市川 真喜子

平成27・28年度に標記指定を受け、「生徒が主体的に言語活動に取り組みながら、学び合いを通して思考・判断・表現する単元構成の工夫」を研究主題として、実践研究を進めてきた。

単元名に「付けたい力」と「課題解決的な言語活動」の内容を具体的に明記し、シートや板書で生徒と共有して学習を進めるようにした。そして、「単元構想計画表」を作成することで指導事項や学習活動、評価規準の整合性を確認した。今年度は、特に「主体的な学び」を促す効果的な学び合いの設定に力を入れて、授業の実践を積み重ねた。

「生徒と共に授業の目的やゴールの確認・想定ができるようになったこと」「生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むようになったこと」が、取組の成果として挙げられる。生徒が学び合いの意図を理解して取り組めるようにしたことで、考えの広がりや深まりを実感している様子が見られた。実生活を意識した「学びのエンジン」となる「課題解決的な言語活動」の設定と「学び合いの充実」を継続し、主体的で深い学びにつなげていきたい。



教育課程研究指定校事業 (中学校理科) (国立教育政策研究所)

要因の抽出と予想・仮説を課題解決の過程の中心に据えた授業の実践

大仙市立中仙中学校 教諭 物部 長秀

本校では昨年度から2か年標記指定を受け、「自然の事物・現象から問題を見だし、主体的に課題解決に取り組む指導方法の工夫～予想・仮説を大切に、学び合いを通して科学的な思考力、表現力を育む指導～」を研究主題として実践研究を進めてきた。

今年度は、新たに教科書の中から仮説を立て演繹的に行うことができる観察・実験を洗い出し、要因の抽出と予想・仮説の場面を課題解決の過程の中心に据えた授業モデルを構築し、併せて、課題解決の思考の流れに沿った板書や学習シートの工夫に取り組んだ。

取組の成果として、予想・仮説を重視することにより、生徒の目的意識が明確になり、その結果として、授業がより楽しいと感じるようになった。さらに、生徒自身が課題解決の前半と後半における思考のつながりを構造化して捉えることができるようになってきた。課題として、生徒自身が観察・実験の計画を立てる経験が不足していることから、その機会を意図的に設定し、より生徒自身の課題解決となるよう工夫したい。



教育課程研究指定校事業 (中学校美術) (国立教育政策研究所)

表現と鑑賞の相互の関連

大仙市立西仙北中学校 教諭 田中 真二郎

1 はじめに

昨年度から2か年、標記指定を受け、「自ら表現したいことを見付け、豊かに表現する生徒の育成～「A表現」と「B鑑賞」相互の関連を図った授業改善～」を研究主題として全校体制で研究を進めてきた。

2 研究の成果と課題

今年度は特に、生徒自ら表現したいことを見付けることや、発想を豊かにするための手立てとして、一方向の授業の流れではなく、発想や制作、鑑賞が生徒個々の学びに合わせて自由に活動できるよう学習活動と教室環境の整備充実を図ることとした。そのことで、材料に触れること、生徒同士の対話、鑑賞資料などを参考に発想を広げる生徒が多かった。

ねらいに迫るための言語活動の在り方に関して、その方法や形態、タイミングなどを模索してきたが、まずは生徒一人一人の自分の考えや思いをもたせることが大切であり、それを基に話し合うポイントを明確にして活動させることが効果的であると感じた。一人でじっくりと考える時間を保障することや、対話を通して、さらに教師から生徒の考えに揺さぶりをかけるような発問をするなど、他の意見を聞いてみたいと思わせる工夫も大切であることが分かった。



教育課程研究指定校事業 (E S D) (国立教育政策研究所)

「大曲南中E S D」を目指して

大仙市立大曲南中学校 校長 須田 百合子

平成28・29年度と標記指定を受け、「持続可能な社会に向けた人づくりを目指した、問題解決的な学習を中心とする全教育活動における指導方法等の工夫改善」を研究主題として研究を進めてきた。

1 研究の概要

目指す生徒の姿とそのため育成すべき資質能力を「大曲南中E S D」としてまとめ、研究の指針とした。

「共通実践事項」の推進による授業改善が研究の重点である。

<共通実践事項>

- ①生徒自らの「問い」を引き出す課題設定
- ②「受信→思考→発信」のサイクルに基づく「聴く」指導の徹底
- ③交流を通して課題解決を図る活動の重視
- ④比較・検討を中心とした学び合いの設定
- ⑤自己の考えを深める「振り返り」の設定

2 成果と課題

- 「大曲南中E S D」の積極的な発信が、生徒や教員の意識化と保護者や地域の理解につながっている。
- 「比較・検討を中心とした学び合い」の設定が、生徒の「批判的に考える力」や「多面的・総合的に考える力」の育成につながっている。
- 「態度化」に重点を置いた指導により、生徒の課題意識が行動に結びつくようになってきている。
- 「共通実践事項」の推進による授業改善について、教科間や教員間で更に連携していく必要がある。



第36回秋田県道徳教育研究大会

よりよい生き方を見つめて

大仙市立花館小学校 教諭 三浦 聖子

平成30年度の「特別の教科道徳」の全面実施を見据え、「互いのよさや違いを認め、共によりよく生きようとする子どもの育成」を目指して研究実践してきた。

1 取組の概要

- ①別業（重点内容別・月別）の作成と活用
- ②主体的に考え議論する授業構想の共有と実践
- ③重点内容についての児童の変容の見取り
- ④実践へのつながりを意識した特別活動の充実
- ⑤学びの様子が見える環境づくりと資料コーナーの整備
- ⑥道徳教育の活動に関わる家庭や地域との連携

2 成果と課題

○自己を見つめ、思いを言葉で表現し合うようになり、日常的に相手の個性や立場を尊重する関わりが増えた。

●児童が主体的に議論し、考えを深めていくことや、理解できた価値をさらに道徳的实践につなげていくことに課題が残る。変容の見取りの生かし方に改善を加えてよさを価値付け、道徳の授業研究を継続していきたい。



第26回秋田県英語教育研究大会大曲仙北大会

Let's enjoy English

大仙市立太田東小学校 教諭 高橋 良以子

本校児童の大きな課題は、思いや考えを表現すること、特に声を出すことへの苦手意識である。外国語活動を通し、その意識を変えていけるのではないかと考え、2年間、研究に取り組んだ。

1 取組の概要

～楽しむ英語～

とにかく進んで話す・会話する・関わり合う姿を目指し、場の設定を工夫した。関連して、必要感のある単元作り、ゴールを目指して意欲的に取り組める単元計画、見やすい掲示、次時につながる振り返り、効果的なT TのためのALTとの打ち合わせと振り返りを考えた。

～全職員で組織的に～

「授業研究部」「環境整備部」「小・中連携部」を立ち上げ、全職員がいづれかに所属して活動した。

～1年生から6年生まで～

全学年の年間指導計画を作成し授業を行った。また、火曜日を英語に触れる日と設定し、朝の放送・児童会のあいさつ運動・業間活動に英語を取り入れ、現在も継続している。

2 児童の変容と次年度へ向けて

“Thank you.”“You're welcome.”“I like…”以前ほど抵抗なく、英語のフレーズを口に出せる児童が増えたことが大きな成果といえる。今後は目指す児童像をより具体的に設定し、楽しい活動を積み重ねていきたいと考えている。



第36回秋田県道徳教育研究大会

「よく生きる」ために
共に考える道徳を目指して

大仙市立大曲中学校 教諭 鈴木 康子

1 はじめに

本校では、道徳教育の研究主題「こころの力を育む道徳の時間の創造～自ら心を開き、共に考え、高め合う生徒の育成～」のもと、秋田県道徳教育研究大会に向け、全校体制で授業改善に取り組んだ。

2 具体的な取組

- ・生徒の心の動きを生かした発問づくり
- ・「考え、議論する道徳」を目指して、生徒から多様な意見や考えを引き出し、個の考えを深めるための学び合いを充実させる工夫

3 成果と課題

○生徒の心の動きや気付き、感想を中心に資料分析し、発問を精選することで、生徒はテーマをより身近に捉え、互いの思いを伝え合うことができた。

○発問や話し合いの形態を工夫することで、多様な考えにふれ合うことができ、自分自身の生き方と結びつけながら考えを深めることができた。

●学び合いをさらに深めるためには、個の意見の取り上げ方や話し合いにおける形態の工夫など、更なるマネジメント力の研修が求められる。今後も共に考え、高め合う生徒の育成を目指し、研修に励んでいきたい。



第26回秋田県英語教育研究大会大曲仙北大会

「伝え合う力」を育てる授業の工夫

大仙市立太田中学校 教諭 佐々木 知子

1 はじめに

太田東小学校と本校は標記指定を受け、既習の言語材料を用いて、互いの考えや気持ちなどを伝え合う活動を通して、コミュニケーションに対する「喜び」と「自信」を育成することを、テーマとして設定した。仙教研外国語部会の協力を得ながら、小・中で互いに授業を見合い、検討を重ね研究を進めてきた。

2 成果と課題

○小・中ともに「まちがってもよい」ということを何度も伝えることで、英語でのやりとりを楽しむようになってきた。

○必要感のある課題（小5：Tシャツをつくろう、小6：一日の生活をたずねよう、中1：My Dream Robotについて伝え合おう）を設定することで、「伝えたい・知りたい」という思いが強くなり、コミュニケーション活動に積極的に取り組む姿が見られた。

●相手意識をもった発信と、よい聞き手を育てることが大切である。今後は、伝える内容を整理しながら、「その場で考えて表現する力」を育成するための活動に、より力を入れて取り組んでいく。



第32回小学校算数教育研究全国大会

第32回算数教育研究全国大会における成果と課題

大仙市立大曲小学校 教頭 高野 一志

1 はじめに

「主体的な問題の発見と解決に向けて学び合う算数の授業」のテーマの下、「全ての子どもが学習に参加しているか」を共通実践課題とした本研究大会において、本校では次のように取り組んだ。

2 取組の概要

授業に全ての子どもが参加できるように児童の主体的な姿を確認した。その姿を実現するため、「めざせ！みんなができる算数100%」を合い言葉とし、日々実践を重ねた。具体的な取組として①学習用具等の授業の準備、発表の仕方などの学習規律の徹底②学習の流れを統一③黒板表示カードの使用とノート指導④振り返りの視点を低中高ごとと提示などである。また、どこまで実践できているかを教師、児童の「チョコ・アン」（ちょこっとアンケート）で随時確認し、全校で取り組もうとする意識を高めた。

3 成果と課題

- 学習規律の向上
- 話を集中して聞く態度の向上
- できた、わかった、好きと自己評価する児童の増加
- 全国学力・学習状況調査、県学習状況調査とも良好な結果
- 望ましい発表の仕方や他者への反応の日常化
- 学び合い場面での教師のコーディネート力の向上
- 授業の焦点化に向けた職員研修のさらなる充実



ふるさと教育の推進「空き家を活用したプロジェクト」

「ついに、始動！」

大仙市立西仙北中学校 校長 小笠原 晃

「うわー、かわいい。」「勝ったー！」まるびちゃんとのじゃんけんゲームに子どもたちが歓声を上げた11月「HUBこども祭」の一場面。7月のオープン後、「生徒の美術の時間展」や先輩が出場した甲子園のパブリックビューイング、各種団体の会合等に使用されてきたHUBスペース。西仙北支所との協働事業である「西仙北中学校地域活性化プロジェクト」の核となるHUBスペースのオープンは、夏休みを明日に控えた暑い日だった。中学生が地域社会にできることを考え実践しようとする事業であり、学区内の空き家をリノベーションして、地域の方々とふれあいをもとうとする取組だ。美術の授業を契機に、生活文化部が中心となり、支所での建築デザイン作品の展示から地域協議会でのプレゼンテーション、そして実際のリノベーション。

生徒がまちに関心をもった。多くの方々の絶大なるご支援をいただいた。それが事業のねらいでもある。刈和野の大綱引きには、伝統継承者としての意識の醸成を図るべく

「もうひと工夫！」



大仙教育メソッドの推進

小・中連携による取組の実際

大仙市立平和中学校 教頭 木村 光紀

1 はじめに

今年度、行政機関との神岡地域連絡協議会、及び平和中学校区連絡協議会を立ち上げ、幼・小・中・地域の連携による取組を推進した。

特に小・中連携については、従来の取組の充実やシステム化を図るとともに、新しい取組にも挑戦した。

2 今年度の小・中連携の具体的な取組

(I) 「基礎となる力」

- SNS 神岡ルールの共有
- ノーメディアデーの取組
- ・「HANAKIN」の共同実施
- 「弁当の日」の同日実施

(II) 「学ぶ力」

- 小・中9年間を見通した「家庭学習の手引き」の作成・配布
- 学びのガイドライン「神岡スタンダード」の作成とそれに基づく授業実践
- 小・中の児童生徒及び教職員の交流
 - ・研究授業相互参観
 - ・壮行会への小6児童の参加
 - ・インターナショナルデー（国際異文化交流活動）への小6児童の参加・英語科教諭とALTによる小学校への乗り入れ授業
 - ・音楽科教諭による小学校全校合唱への専門的な指導、協力



(III) 「活かす力」

- 被災地交流活動
 - ・小学校から、被災地への手作りうちわの寄贈
- 500歳野球大会協力
 - ・全国プレ大会出場チームの応援の旗を小・中学生が作成し寄贈
 - ・紹介DVD作成への出演協力（小・中学校）
- クリスマスコンサートへの参加
 - ・小学校主催のクリスマスコンサートに中学校吹奏楽部も出演し、合同演奏を実施



3 成果と課題

- 小学生の中学校生活や中学生への憧れ、中学生の先輩意識やリーダーシップの発揮など、情意面で意欲的な好ましい状況が見られる。
- 小・中学校の教職員が取組の意義を実感し、連携に積極的な姿勢を示している。
- 「学ぶ力」につながる授業改善についての具体的な取組を更に充実させていきたい。

「大仙ふるさと博士育成」事業（市教育委員会）

知れば知るほど好きになる！
私たちのふるさと「大仙」

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 和田 英 範

【事業のねらい】

小・中学生が自ら地域と関わることにより、ふるさとを愛する心を育て、地域の将来を担う人材の育成を目指す。

【事業の概要】

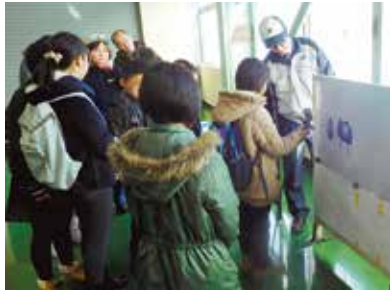
〔対 象〕大仙市内の小・中学生

（小学校3年生～中学校2年生 約3,800人）

〔訪問先〕企業、文化財、施設、異校種、公民館主催の行事、地域行事等（原則大仙市内）

〔活動内容〕

- ①訪問・体験先リストの作成、イベント情報等の提供（市教委）
- ②行きたい訪問先を決定（児童生徒）
- ③ハローパスポートを持参し訪問→認印（訪問先）
- ④学校へ記録用紙を提出（児童生徒）
- ⑤活動内容に応じてポイントの認定（学校）
- ⑥ポイントに応じて「大仙ふるさと博士」に認定し、認定証と記念バッジを進呈（市教委）



＜企業見学の様子＞

【成果と課題】

今年度の夏季休業開始に合わせて本事業がスタートした。

- 活動に参加する中で新たな発見や疑問が生まれ、地域の人々の思いに触れたりすることができた。（児童生徒の感想より）
- 大仙ふるさと博士の初級・中級認定者が約700名に上った。（平成29年3月現在）
- いくつかの地域行事やイベント等において、参加者が増えてありがたいという感想をいただいた。
- 音楽や踊りの披露など、主体的に地域に貢献する例が見られた。
- 保護者や知人の勤務先などを紹介してもらい、訪問・体験先リストにない場所でも、主体的に見学や体験を行っている例が見られた。
- 校内にふるさと博士コーナーを設置するなどして、学校でも事業の積極的活用を協力いただいた。
- 保護者（訪問先への送迎等）や学校（記録用紙への記入やチェック・押印等）へ負担をかけること。
- 「大仙ふるさと博士育成」事業ホームページの閲覧数が少なく、情報発信が効果的にできていない。
- 事業の趣旨や進め方について、訪問先や学校・家庭等に対する周知が不十分な点があった。
- 新たな訪問・体験先の開拓が課題（特に企業分野）



＜記念バッジ＞

心のプロジェクト「夢の教室」（市教育委員会）

チャレンジ！チェンジ！

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 高橋 規子

児童生徒の「夢の実現に向けて努力したりチャレンジしたりする心の力」を育てようと、今年度も夢の教室を開催した。

小学校に来てくださった夢先生は、スポーツ分野から3名、芸術分野（絵画・音楽）から2名。中学校へは、スポーツ分野から2名、芸術分野から1名の先生方をお招きした。

プロの技の素晴らしさに触れながら、そこに到達するまでの夢先生たちのお話を直接聞き、子どもたちは「失敗や挫折から学び、次の新たなステップを踏み出していくことの大切さ」を感じているようだった。

将来自己実現を果たしていく途上で、出会った夢先生の生き方が、子どもたちにとっての励みとなればうれしく思う。



＜図工バージョン＞



＜音楽バージョン＞

コロンブスの卵わくわくサイエンス事業（市教育委員会）

「科学」を身近に感じよう！

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 和田 英 範

「理数教育の充実」のため、今年度も継続して教職員対象の「観察・実験授業スキルアップ出前研修」と、中学生対象の「中学生首都圏大学・総合研究所派遣」の二つを柱として、本事業を実施した。

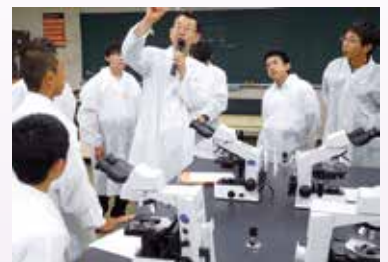
＜中学生首都圏大学・総合研究所派遣＞について

【概要】

8月3日（水）から4日（木）に、中学生18名が参加して実施された。一日目は筑波宇宙センター（茨城県）と日本科学未来館（東京都）に分かれて、二日目は全員が千葉大学医学部で研修を行った。

【参加生徒へのアンケートから】

最先端の施設での見学や体験を通して、参加者からは「自分の将来を見付けるためにはピッタリな事業だと思う」「自分の知らないことをたくさん学ぶことができ、深い学習ができた」などの



感想が寄せられた。さらに「将来、科学に関連する仕事に就きたいと強く思うようになった」と答えた生徒が80%を超えるなど、自分の将来と結び付けて考える生徒が多く、この事業の成果の一つであると言える。

平成28年度文部科学大臣表彰

地域と連携した安全教育

大仙市立角間川小学校 教頭 今野 浩

大曲仙北教育研究会からの研究委嘱を機に、平成24年度から防災教育に取り組んできた。その内容は、

- ・防災教育の視点を組み込んだ授業展開の工夫
- ・チョコ防（ちょこつと防災訓練）の実施
- ・校内防災研修会の実施と防災安全マップの作成
- ・交通安全パレードへの全校児童の参加
- ・交通安全教室の実施と全校児童の自転車点検
- ・防犯教室及び情報モラル教室の実施
- ・煙道体験を含む避難訓練の実施である。

中でも、長年取り組んでいるのが昭和41年から参加している地域の交通安全パレード。今年度も全校児童が参加した。地域の方が交通安全を考えるきっかけになっているとともに子どもたちが、自分たちを見守ってくれる地域の方へ感謝の気持ちをもつ機会となっている。安全教育を通じて学校と地域が双方向に連携し合い、子どもたちが地域の行事に積極的に参加することによって、地域を活性化することに結び付いている。



「大仙っ子読書の日」に係る取組事例

図書委員会主催 ミニ・ビブリオバトル

大仙市立清水小学校 教諭 高橋 和世

年度当初に購入した学級文庫を、後期は読書意欲喚起のため近隣学年で入れ替えることにした。その際、図書委員がおすすめ本を紹介し、それを聞いた子どもたちが一番読んでみたいと思った本に投票する「ミニ・ビブリオバトル」を行って見た。

前期末と後期始めの2回の委員会で効率よく準備は進み、バトル本番では原稿も見ずに堂々とお薦め本を紹介し、進行もスムーズにできた。



そんな図書委員に「次回またやるとしたら？」と尋ねると次のような感想が出てきた。「まずは自分をもっと楽しそうに話さなくちゃ。」



「バトルで票を取れた人は、もっと詳しく内容について語っていた。」

「聞く人が『次はどうなるの』と気になるような紹介の仕方をしたい。」

次回に向けて、そんな課題意識をもつことができた図書委員。来年度の委員会活動も楽しみである。

大仙市中学生議会（市教育委員会）

笑顔と活気あふれる
まちづくりをめざして

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 小田長 早苗

1月12日、3年ぶりに大仙市中学生議会が大仙市役所本会議場で開催された。大仙市の未来を担う中学生が、議長や議員となって市の事業や取組について質問や提案を行った。

今回の中学生議会を見据えて、昨年8月に行われた中学生サミット全体会において大仙市の現状の理解と問題の共有化を図るとともに、「自然・環境」「健康・福祉」「地域



コミュニティ」「産業・活性化」「教育・文化」「安心・安全」の六つのテーマに分かれて協議を行った。その中で、小学生を含む参加者からたくさんの意見やアイデアが出された。それらを基に、5か月後に行われる中学生議会で地域活性化につながる質問や提案を確認して会を閉じた。

そして迎えた中学生議会。各中学校とも自分たちが住んでいる地域や学校での取組と関連付け、資料や写真を提示しながら鋭い質問と具体性のある提案を市当局に堂々と伝えた。



「大仙市の活性化、若者の定着について」「環境保護対策について」「文化財のPRについて」等、様々な角度から大仙市を見つめ直し、課題意識を高めた中学生議員に対して、市長、副市長、教育長、各部長が誠意をもって丁寧に答えてくださった。中学生議員は、自分たちの質問や提案が、魅力あるまちづくりの一助となったことに感動し、大仙市の未来をつくる主役としての自覚を高めた。



この中学生議会の経験と、ここに至るまでの取組をきっかけとして、大仙市の行政や議会への理解を深めるとともに、各中学校での様々な取組や地域と連携した活動がさらに活発化すること、そしてそれが大仙市全域に広がっていくことを期待している。

～大仙市中学生議会宣言～

私たち大仙市の中学生は、ふるさとを愛し、「大仙らしさ」を大切に守り続けるとともに、笑顔と活気あふれるまちづくりをめざし、大仙市の未来をつくる主役として、地域とともに積極的に活動していきます。

大仙市中学生サミット (市教育委員会)

中学生サミット結成10年
地域活性化プロジェクト始動

大仙市教育委員会教育指導課 指導主事 小田長 早 苗

【中学生サミット全体会 平成28年8月19日】

今年度は、中学生サミット10年目の年ということで、第1部ではスライドショーでこれまでの活動の歩みを振り返り、サミット1期生の先輩からメッセージをいただいた。中学生サミットの意義や必要性を全体で共通理解し、意識を高めることができた。



第2部では、大仙市役所総合政策課の職員から大仙市の現状と目指しているまちづくりについて説明してもらった後、「ずっとここに住みたいと思える大仙市のまちづくり」について協議をし、意見やアイデアを出し合った。そして、中学生サミットとして「地域活性化プロジェクト」を立ち上げ取り組んでいくことを確認した。

【その他の主な取組】

- ・REVO通信No.1～No.4の発行
- ・避難所開設訓練への参加(仙北中学校にて)
- ・中学生サミットポスターの作成と配布
- ・大仙市中学生議会参加
- ・REVO11(各校版REVO通信)発行

大仙市校種間連携懇談会 (市教育委員会)

校種間連携のメリットを生かした
教育活動の推進を目指して

大仙市教育委員会教育指導課 課長 佐藤 英樹

平成27年度(平成28年1月)、「小・中連携、中・高連携、特別支援学校との新たな連携の方策を探る」ことなどを目的とし、大仙市校種間連携協議会が設立。第1回協議会では、大曲小学校と仙北中学校から、地域の高等学校と日常的に交流している取組を紹介するなど、主に小・中学校からの情報発信の場が中心であった。

2回目の開催となる今年度の協議会は、7月21日に開催。本協議会の前半は、市教育委員会の新規事業である「大仙ふるさと博土育成」事業の概要説明に加え、高等学校・特別支援学校で取り組んでいる地域連携・校種間連携に関するキャリア教育の実践紹介及び質疑応答などであった。

その後は、当日参加した市内の高等学校4校と大曲支援学校による五つのブースを設置し、各小・中学校長等が「これまでの連携をさらに深めたい」という思いや、「今後の連携について検討してみたい」という願い等を持ち、希望する学校のブースに集まり、熱心な協議が展開された。

大仙教育メソッドによる地域連携・校種間連携推進のために本協議会が果たす役割は非常に重要であり、次年度以降も継続して開催していきたいものである。



<ワークショップ型懇談での情報交換>

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 (市教育委員会)

地域との絆を大切に
主体的に取り組む避難所開設訓練

大仙市立仙北中学校 教諭 高橋 涼

1 ねらい

「災害時における避難所開設にあたり、生徒一人一人が地域の一員として何ができるのか考える」「主体的に運営に参画し地域住民と協力しながら運営する」という2点をねらいとした。

2 訓練の概要

10月21日(金)午前9時頃、仙北地域を震源とする強い地震が発生。仙北地域の市民は各避難所に避難することに。直ちに仙北中学校に避難所を開設する運びとなり、生徒会が主体となり避難所開設のための各役割の指示が全校に出された。

3 成果と課題

「地域との絆・つながり」が強く意識された避難所開設訓練だったと思う。生徒会本部を中心とし、生徒自らの発想や活動によって避難所を開設し運営された。体育館では授乳する女性のためのスペースをつくる生徒がいたり、外のテントでは、避難者に寒さをしのぐ毛布を配りながら声をかけ、リラックスしてもらおうと肩もみをしている生徒がいたりして、ふれあいを常に大切にする姿と生徒の自主性にあふれる一日であった。



大仙市立中学校生徒海外派遣事業 (市教育委員会)

感動体験 in オーストラリア

大仙市立大曲南中学校 教諭 牛木 豊

1月3日から10日間は、20名の参加者にとって、圧倒的スケールの大自然を舞台にした感動溢れる研修となった。特に、メインと言えるファームステイでは、気さくで面倒見のよいホストファミリーが、心温まるもてなしで歓迎してくれた。言いたいことが思い通りに伝わらない言葉の壁にぶつかりながらも、英語というフィルターを通して、人の温かさに触れた4日間だった。また、現地で活躍する日本人へのインタビューも貴重な機会となった。英語力を高めるためにどんな努力をしたか、価値観の違いをどうクリアしたかなど、実体験に基づいた言葉には説得力があり、どの生徒も聞き逃すまいとメモを取っていた。彼らにとって、学び続けるエネルギーや将来の生き方についてのヒントを得る研修になったと思う。全日程を終え、無事に保護者の前に立った彼ら。その表情には安堵と自信が感じられた。今後、学校や地域のリーダー的存在となり活躍してくれることを願っている。



第20回大仙市教職員研究集会 職務別等研修 (市教育委員会)

実践的指導力を高める研修について

大仙市教育委員会 教育研究所長 佐藤 厚子

確かな学力を支える生徒指導の充実、「特別の教科道徳」についての理解推進、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実、持続可能な開発のための教育(E S D)の推進等、喫緊の教育課題や時代の要請に応じた不断の研修が求められるところである。

本市では、各分野における実践的指導力を高めることを目的とし、教職員研究集会当日の午前中に、次の四つの研修会を実施した。

【生徒指導主事研修会】(担当：築地高指導主事)

いじめに係る研修を実施した。前半は県教育庁南教育事務所仙北出張所大阪瑞穂指導主事から「いじめの正しい認知について」のテーマで講話をいただいた。後半は中学校区ごとのグループに分かれ、具体的な事例をもとに「いじめの初期対応」について協議した。研修を通して、いじめの積極的な認知や対応等に関しての共有化が図られた。



【道徳研修会】(担当：高橋規子指導主事)

「特別の教科道徳」が平成30年度から小学校、平成31年度から中学校で全面実施される。昨年度に引き続き、秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所熊谷留美子指導主事を講師に迎え、「今学校で取り組むべきこと」は何かについて、事例発表、講演、演習を通して、各校の道徳教育推進教師の先生方が研修を深めた。



【特別支援教育支援充実研修会】(担当：櫻田武指導主事)

今回の研修テーマは「ユニバーサルデザイン視点による分かりやすい授業づくりや環境整備について(中仙小学校：木元先生)」「インシデント・プロセス法による事例検討会」。学校生活支援員と各校の代表者、83名が参加した。「支援が必要な子どもの思考・見え方・聞こえ方が分かっているようで分かっていなかった。」等、先生方にとって自分の支援を振り返るよい機会となったようである。次期学習指導要領でも各教科等における障害に応じた指導上の工夫が示される予定であり、特別支援教育の視点は教科等の指導でも大事にしたい視点である。



【E S D研修会】(担当：和田英範指導主事)

次期学習指導要領において重視されているE S Dについての研修を行った。

■研修の概要

- ・「教育の基盤としてのE S D」及び「学校におけるE S Dの進め方」についての講義
(講師 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター主幹研究員 地球環境学博士 及川幸彦氏)
- ・「海洋教育の視点からのE S Dの実践」
(講師 同センター特任講師 田口康大氏)

■成果

- ・E S Dの意義・必要性についての理解が促進された。
- ・今後の各学校におけるE S Dへの取組について、具体的な方向性が示された。



第20回大仙市教職員研究集会 全体会 (市教育委員会)

大仙教育メソッドの推進

大仙市教育委員会 教育研究所長 佐藤 厚子

今年度の教職員研究集会は、大仙教育メソッド元年ということ踏まえ、「大仙教育メソッドの推進～地域に学び、地域活性化につなげる教育～」のテーマの下、開催した。

吉川教育長講話、平成27年度県外派遣教員である檜尾春海教諭(高梨小)による広島県の教育事情についての発表。さらには、大仙市の文化財について、細川生涯学習部長待遇兼文化財保護課長の講演を聴いた後、清水小学校児童「黒土神楽の演舞」、南外中学校生徒「南外の仕事着ファッションショー」、仙北中学校生徒「旧池田氏庭園案内ボランティア活動の紹介」の発表が行われた。

三校の発表からは、昔から引き継がれてきた文化財を大切に、その良さを未来に繋げていこうとする子どもたちの思いをしっかりと感じ取ることができた。

この思いを是非、地域活性化に繋げていってほしい。



<清水小学校黒土神楽の演舞>

平成28年度 教育研究所のあゆみ

1 大仙市教職員研究集会

- ①第1回大仙市教職員研究集会(H28. 4. 26)
 - 吉川教育長講話 □特色ある取組発表
- ②第2回大仙市教職員研究集会(H28. 8. 2)
 - 職務別等研修会(午前)
 - 生徒指導主事研修会
 - 道徳研修会
 - 特別支援教育支援充実研修会
 - E S D研修会
 - 全体会(午後)
 - 吉川教育長講話
 - 広島県の教育について
 - 大仙市の文化財について
 - 大仙教育メソッドの推進状況の発表
(清水小、南外中、仙北中)

2 学校訪問

- ①教育委員等訪問…市教育委員会や各学校の教育方針等の共通理解
- ②教育長等訪問…学力向上、「総合的な学力」の育成、生徒指導上の課題への対応等について状況を把握し、改善の手立てなどを確認

3 学力向上対策(学力向上推進委員会の活動内容)

- ①全国学力・学習状況調査及び秋田県学習状況調査の分析結果を提供
- ②課題を踏まえたフォローアップシートの作成

発行 大仙市教育研究所

〒014-8601 秋田県大仙市大曲上栄町2-16
TEL: 0187-63-9400 FAX: 0187-63-9401
E-mail: om-kyouken@edu.city.daisen.akita.jp